



特集 シニアの力 × 介護の現場

市内で「要介護認定」を受けていない高齢者は、約57,000人。水戸市には、元気なシニア＝アクティブシニアといえる方がたくさんいます。

今回の特集では、アクティブシニアが介護の力になる、「介護助手」という働き方について紹介します。サポートを必要としている介護の現場で、皆さんの力を使ってみませんか。

問合せ／介護保険課(☎232-9177)

**65歳以上になっても
働き続けたい**

シニアの中には、「まだまだ働きたい」「誰かの役に立ちたい」、そう考えている方も多いのではないのでしょうか。

60歳以上の方を対象に行った『令和元年度高齢者の経済生活に関する調査』(内閣府)によると、約6割の方が、65歳以上になっても働き続けたいと回答。さらに、そのうちの3割以上の方が、生涯現役でいたいと考えています。

**「自分にできることで
現場を助ける介護助手**

このことを踏まえ、市ではアクティブシニアの社会参加を促す活動の一つとして、介護助手を育てる事業を行っています。

介護助手は、単に介護の人材不足を補うだけでなく、これまでの経験を活かしながら、「自分にできること」で、介護の現場を助ける仕事です。次ページから、その内容を紹介いたします。



介護助手養成「ちいすけ水戸」

市では、令和2年度市協働事業として、NPO法人 ちいきの学校と、アクティブシニアの社会参加を促すための介護助手養成「ちいすけ水戸」に取組んでいます。

「ちいすけ」には、「地域の助っ人」という意味が込められています。介護助手として働いてみたいアクティブシニア向けの講座を開催しています。介護予防や認知症への理解など、知っておきたい基礎知識を学ぶことができます。

講座終了後のお茶会では、受講者と介護事業所との出会いもサポート。ボランティアスタッフとして参加する介護事業所の職員から、介護助手として働く場合の仕事内容や勤務時間などについて、直接話を聞くことができます。

10月の講座を受講した方は、「実際に働いている方の話を直接聞き、自分が働く姿をイメージすることができました」「自分が役に立てるかもしれないと考えるとうれしいです」と話していました。※講座を受講したすべての方が、介護助手として働くことを約束するものではありません。



講座の様子。座学のほか、体を動かしながら介護について学びます。当日の様子を、市公式YouTubeチャンネルで公開しています。右の二次元コードからもご覧になれます。



アクティブシニアの活躍が高齢社会を支えます！ NPO法人 ちいきの学校 小林信彦さん

まだまだ働きたい、社会に貢献したいと考えている方が活躍できる場を作りたい。そのような思いから、私たちは、アクティブシニアの皆さんが、社会で活躍できる機会を作るため、市と協働で「ちいすけ水戸」という取組を始めました。1日3時間程度から働ける事業所もあります。アクティブシニアの皆さん、楽しく学んでいきいき働いてみませんか。

募集 「ちいすけ水戸」で、介護について学んでみませんか

期日・場所／①11月18日(水)…内原市民センター
②11月25日(水)…市役所4階 ③12月10日(木)…
稲荷第一市民センター
時間／午前10時～午後4時
対象／おおむね60歳以上の方
定員／各20名(定員になり次第締切り)
料金／500円(お茶会代) ※講座のみ参加する場合は無料。

申込み／各開催日の3日前までに、氏名、電話番号、希望日、居住する市区町村を記入のうえ、電話またはファックス、Eメールで、ちいきの学校(☎259-9293、✉info@chiikino.com)へ
※詳細は、市ホームページをご覧ください。
問合せ／ちいきの学校(いばらき中央福祉専門学校内、☎259-9292)または市介護保険課(☎297-1018)



介護事業所の業務内容

周辺業務
(専門業務以外の業務)
掃除、洗濯、話し相手、レクリエーションなど

専門業務
食事、排せつ、入浴などの介助



みんなにいいことが生まれる介護助手の仕組み

アクティブシニアによる介護助手
就労の機会、社会貢献、いきがいづくり

介護サービス利用者
より質の高いサービスが受けられる

介護事業所
人材確保、専門職の負担軽減、専門性を活かした介護

アクティブシニアにとっての**介護助手**という働き方
介護の仕事といえば、食事や排せつの介助などを思い浮かべる方も多いかもしれませんが、介護助手は、配膳や掃除など、専門業務以外の周辺業務を担当します。高齢者の方でも、体力的に十分働くことができる仕事です。
介護助手のサポートによって、今まで周辺業務と並行して身体介

護などの専門業務を行っていた介護職員の負担は軽くなり、介護に専念できるようになります。そして利用者は、さらに質の高い介護サービスを受けることができます。
もう一度社会に貢献したい、いきがいづくりをしたいと考えているアクティブシニアにとって、介護助手はふさわしい働き方の一つといえるのではないのでしょうか。

interview

誰かの支えになれるのが介護の仕事



石川敏子さん(65歳)
介護助手、カルチャースタッフ
デイサービスセンターもみじ館

石川さんのある日のスケジュール

9:00	出勤
10:00	カルチャー教室
11:00	お茶出し、配膳準備
12:00	片付け
13:00	退勤



週に2〜3日、デイサービスセンターで働く石川敏子さん。介護助手として、施設の利用者にお茶出しや配膳などを行うほか、カルチャースタッフとして書道を教えています。施設で働き始めたきっかけは1枚のチラシ。「家にばかりいたので外に出たいと思っていたところ、カルチャースタッフを募集するチラシを目にして、趣味の書道を活かせると思い応募しました」と振り返ります。

教室がある日は、参加する皆さんが楽しみに待っているそう。「何年も続けてきて、変わらないのは『先生に褒められることがうれしい』と言う皆さんの声。子どもも大人も、褒めてもらえるうれしさが力になるんですね。皆さん積極的に取組んでいますよ」。

石川さんは、介護助手について「人の痛みが分かる人、寄り添うことができる人は、向いているのではないのでしょうか」と話します。「介護に関わる仕事は、いろいろな仕事の原点だと思っています。どんな仕事でも自分だけが良ければいいと考えるのではなく、補い合って、寄り添って、助け合うことができればいいですね」。

そんな石川さんの活躍を見て、施設長の伊藤浩一さんは、介護助手の重要性を日々感じています。「誰かと話す、何かを学ぶ。そういった事が、人生の豊かさにつながる。介護助手という存在が、利用者の方、介護助手として働く方にとって、『いきがい』をもたらす好循環が生まれていると思います」。

